

オシュ州における教育機関の視察



4月12～13日、前田大使はオシユ州に出張し、令和元年度対キルギス無償資金協力「気候及び災害リスクに対する児童の強靱性強化計画」（UNICEF 連携）の支援を受けた、ノーカット地区サリエヴァ名称幼稚園及びオシユ市マルクス名称小・中学校を視察しました。

前田大使は児童らに対し、日本はキルギスと同じ災害大国であり、学校での定期的な避難訓練の実施や防災教育が、自然災害の被害を最小限にとどめるのに役立っていると述べ、UNICEF ボランティアによるワークショップで学んだことを、家族にも伝えて実践するようお話ししました。更に、2011年に発生した東日本大震災への支援として、キルギスが2.5トンものミネラルウォーターを寄付してくれたことを日本人は決して忘れず、日本はこれからもキルギスの防災能力向上を支援していく旨述べました。

「気候及び災害リスクに対する児童の強靱性強化計画」は、学校での避難訓練の実施、防災設備の供与及び防災教育等の活動を通じ、学校を拠点とした地域の防災能力の向上を目的とした案件です。2017年から2019年まで実施した第1フェーズの成果を更に拡大し、2020年から2023年まで実施予定の本案件により、キルギス全国90万人の児童の防災能力向上が期待されます。

(了)